



日塗工 整理No.(日塗工記入)	2015-24	労働災害状況調査表		
発生会社 事業所				
災害発生日時	2014年 7月 24日(木) 12時 40分 天候(晴) 温度(33℃)湿度(48%)			
災害区分	不 休 災害 休業災害(休業:△日)			
被災者	部門	業務課 受注センター 物流	雇用形態 正社員、派遣、契約、 <u>その他(業務委託)</u>	
	年齢	24 歳	性別: <u>男</u> 女 勤続年数 2年3ヶ月 経験年数 2ヶ月	
	傷病名	病名 (熱中症)		
	傷病部位	過呼吸・手足の痺れ		
災害発生状況	倉庫で荷揃えの作業中に熱中症の状態になり、病院へ搬送した。 被災者は、当日の午前中に製品倉庫で荷揃えを行っていた。作業場所は、倉庫外部のホーム上(写真上)及び内部(写真下)の双方。 午後の作業に入った30分後に立ちくらみを覚えて、涼しい場所で休んでいたが、その後、過呼吸と手足の痺れが発生。応急処置として衣服を脱がせ、脇を氷で冷却するなどの処置を行ったが、水分を自力で取ることが出来ず、救急車で病院に搬送した。		状況概略(写真orイラスト)  製品倉庫 外部及びホーム  製品倉庫 内部	
	災害の型 ^{※7}		作業の形態: <u>定常</u> 、非定常、その他()	
	起因物: 高温の職場環境		特記事項	
	原因分類	1.人的要因(man) 熱中症に対する危険性の認識が不十分だった。		
		2.物に関する要因(machine)		
3.環境要因(media) 気温が33℃を超える真夏日だった。				
4.管理的要因(management) 作業員に対する健康管理への注意喚起が不十分だった。				
対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事務所に緊急用の保冷材(アイスノン・冷えピタ・氷)を常備 ・スポーツドリンク、塩あめなどの塩分を含んだものを用意し、摂取させる。 ・熱中症リーフレットの回覧と熱中症予防学習会を受講し、予防と対策を学ぶ。 ・冷却したタオルを準備し、身体を冷やしながら作業にあたる。 ・朝礼の他に昼礼を行い、作業員の体調確認を行う。 			
	対策分類 ^{※2)} : 1-6, 2-4			

※1) ①から選択

※2) ②から選択(複数可)